

九州かわとも

■「川の応援団」

九州地方整備局 河川部長 加藤智博 氏

■水辺のオタク

前 やながわ有明海水族館 館長 / 亀井 裕介 氏

■流域治水

■流域じまん

がんばりよるよ星野村(福岡・矢部川)

蕨野の棚田を守ろう会(佐賀・松浦川)

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)(長崎・本明川)

五名地域デザイン協議会(熊本・菊池川)

大分川下流域かわまちづくり検討委員会(大分・大分川)

ひむか感動体験ワールド(宮崎・五ヶ瀬川)

かのやコミュニティ放送(鹿児島・肝属川)

第9号

TAKE FREE

優秀賞:季節を感じる写真(夏)/球磨川(熊本)

九州かわとも

川あそび情報誌九州かわとも「やっぱり川へ行こう」

2025年春号(Vol.9)
2025年5月30日発行

編集発行:「九州かわとも」編集部
事務局:九州河川協力団体連絡会議

九州の川遊び情報募集中!



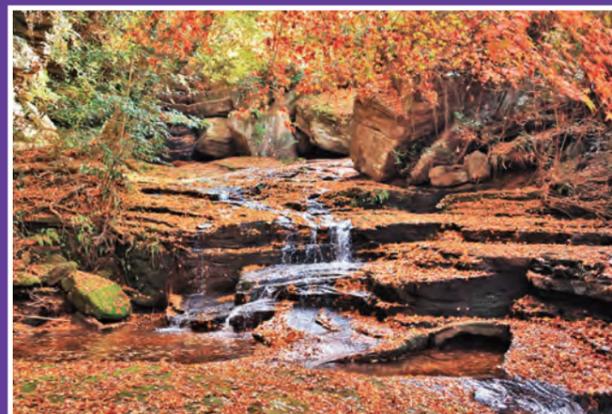
九州の川で色々な活動をしている皆様!「九州かわとも」編集部まで、ぜひ情報をお寄せください。お待ちしております。



川あそび情報誌「九州かわとも」事務局
(一社)北部九州河川利用協会内

TEL:0942-34-6733 FAX:0942-32-6977
MAIL:kawatomo.mk@gmail.com

第7回九州川の風景コンテスト・受賞作



最優秀賞:山中渓谷(福岡)



優秀賞:季節を感じる写真(秋)
国土交通省管理河川賞/遠賀川(福岡)



優秀賞:スマホ賞/筑後川(福岡)



優秀賞:川の楽しさ・魅力を感じる写真
/砥崎川(熊本)



優秀賞:学生賞/白谷川(鹿児島)



優秀賞:季節を感じる写真(夏)
/北川(宮崎)



優秀賞:季節を感じる写真(夏)
/筑後川(福岡)



優秀賞:川の楽しさ・魅力を感じる写真
/星野川(福岡)



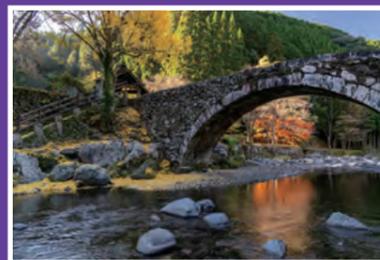
優秀賞:季節を感じる写真(秋)
/遠賀川(福岡)



優秀賞:季節を感じる写真(夏)
/山国川(大分)



優秀賞:川の楽しさ・魅力を感じる写真
/松木川(大分)



優秀賞:季節を感じる写真(秋)
/河保川(熊本)



優秀賞:季節を感じる写真(夏)
/嘉例川(長崎)



優秀賞:カッコイイ!河川工事の写真/郡川(長崎)

九州各地で、

「川と街をつなげる」
「川と人をつなげる」

取り組みが始まっています



優秀賞:川の楽しさ・魅力を感じる写真
神浦川(長崎)

九州河川協力団体連絡会議 第3代会長 池辺 美紀 氏よしのり 所信表明



九州河川協力団体連絡会議 第3代会長を務めさせていただくことになりました。宮崎県のNPO法人大淀川流域ネットワークの池辺美紀です。どうぞよろしくお願ひいたします。

このたび、新たに「グリーンはな走会」が加わり、九州各地の45団体で構成される連絡会議に、さらに活気が加わることをうれしく思います。

私は現在56歳。所属団体では設立から活動に関わり、今年で21年目となります。これまでの活動経験を活かし、九州の川をさらに元気にし、未来に誇れる川文化をみなさんと共に築いていきたいと考えています。

レジェンドへの感謝

「九州の川は元気」と言われる背景には、長年活動してこられた先輩方の存在があります。24年前に始まった「九州流域連携会議」を皮切りに、九州の川を横断的に結ぶネットワークが生まれ、全国的にも注目を集めるようになりました。

初代会長の濱崎相談役をはじめ、金尾相談役、中村前代表、そして田上相談役など、礎を築いてくださった皆さまに心から敬意と感謝を申し上げます。

- **トピック** 九州河川協力団体連絡会議 新会長 所信表明 / 池辺 美紀 氏 2
- **川の応援団** 3
国土交通省 九州地方整備局 河川部長 / 加藤 智博 氏
- **水辺のオタク** 5
前 やながわ有明海水族館 館長 / 亀井 裕介 氏
- **流域じまん** 7
 - ・ がんばりよるよ星野村 (福岡・矢部川) / ・ 蕨野の棚田を守ろう会 (佐賀・松浦川) 7
 - ・ ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) (長崎・本明川) / ・ 玉名地域デザイン協議会 (熊本・菊池川) 9
 - ・ 大分川下流域かわまちづくり検討委員会 (大分・大分川) / ・ ひむか感動体験ワールド (宮崎・五ヶ瀬川) 11
 - ・ かのやコミュニティ放送 (鹿児島・肝属川) 13
- **編集員が見つけた川の風景 / 川辺の風景マニアッククイズ** 14
- **流域治水** 15
- **トピック** ・川のワークショップ in 長崎 17
 - ・ ジャンボいなり (大分・大分川) / ・ アカメ (宮崎・五ヶ瀬川) 18
- **活動団体紹介** 19
 - ・ 五ヶ瀬川流域ネットワーク (宮崎・五ヶ瀬川) 19
 - ・ 番匠川流域ネットワーク (大分・番匠川) 20
- **編集後記** 21
- **協賛企業一覧** 22

活動のテーマは

「笑顔の集まる川づくり」

今後の活動テーマは、「笑顔の集まる川づくり」です。子どもたちの笑顔があふれ、若者が輝き、流域の住民が自然と集うような川を目指します。そのためには各団体の充実と、国土交通省の河川事務所・出張所との連携が不可欠です。

情報発信と連携の強化

九州河川協力団体連絡会議として、公式ホームページを新たに立ち上げる予定です。各団体の紹介やイベント情報の発信を通じて、「九州の川の元気さ」をより多くの人に伝えたいと考えています。また、「かわとも」の紙面もさらに充実させていきます。

団体の活性化が土台

私たちの活動の土台は、各団体の日々の取り組みです。会員の募集や次世代の育成、予算の確保といった課題を共有し合い、互いにサポートしながら、活性化を目指します。

流域世話人・マネージャーの皆さんとも連携を深め、流域ごとの活動強化に加えて、九州全体での共通事業も検討していきます。

変わる川づくりへの対応

近年は、記録的豪雨による災害の頻発などから「流域治水」の考え方が広まっています。私たちは川の専門家の一員として、住民に正確な情報を届けることが求められています。

また、遠賀川のような親水性の高い整備、川内川のカヌー競技場、大淀川のネイチャーポイントな取り組みなど、時代に合った川づくりに住民として関わることも重要です。

今後は、視察や研修の機会も設け、川に関する知識や文化的理解を深めていきたいと考えています。

最後に

この会長の役割は大きな責任であり、挑戦でもあります。一人では到底成し得ないことですが、皆さまのご理解とご協力があれば、きっと「笑顔の集まる川づくり」を実現できると信じています。

ともに子どもたちの笑顔が輝く川を、流域住民が親しみを持てる川を、そして川文化を次世代に引き継げる地域を築いていきましょう。

どうぞよろしくお願ひいたします。

川の応援団



国土交通省 九州地方整備局 河川部長 加藤 智博 氏

みらいに向けた 川への想い

『九州かわとも』第9号の発刊、おめでとうございます。

私は、昨年7月、18年ぶりの九州地方整備局勤務となった以降、多くの方々から、様々な機会を通じて、九州各地の河川沿川の実情や課題、夢、想い等をお伺いし、時には叱咤激励をいただきながら、日々の業務に取り組んでいます。

「かわとも」を拝見するたび、九州各地の河川で活動されている方々の様々な取り組みに感銘を受けるとともに、今度の休日にはどこの流域の「じまん」を見に行こうかと、心躍らせている今日この頃です。

変わらない水辺の魅力

私は埼玉県北部で生まれ育ち、海なし県出身者の私にとって身近な「水辺」と言えば河川で、数多くの楽しい思い出がよみがえる場所であり、心落

ち着く空間です。

幼少期には、よく親に連れられて河川敷に行き、堤防で段ボールを使って芝すべりなどをして遊んだり、母親手作りのお弁当を食べたりしました。夏休みなどには、親戚一同で、上流の方に行き、沢ガニ捕りや水遊び、バーベキューをしたりと、河川には楽しい思い出がたくさんあります。

今でも普段から河川を見るのは好きで、ジョギング等で橋を渡る時にはなんとなく立ち止まり、散歩している方々や河畔林、遠くに望む山々の景色などを眺めてしまいがちです。時には河川敷に降り、聞こえてくる川のせせらぎや目にする川面等に心が落ち着きます。

安心・安全への取り組み

一方、小学生の頃に、大雨で自宅周辺が浸水し、家が陸の孤島のようになりました。氾濫を間近で見ると、とても怖く、自然の怖さ、脅威を感じたことが記憶に残っています。

近年、全国のどこかで毎年のように甚大な水災害が発生しています。私の幼少期から比べると、雨の降り方が大きく変化していると感じています。

まずは少しでも、そして、一日も早く、水災害から沿川にお住まいの方々の安全・安心の確保を図るための取り組みを進めていきたいと考えています。

現在、管内20水系の河川を管理し、鋭意、堤防整備や河道掘削、ダム事業などの治水事業を進めています。昨今の水災害の激甚化・頻発化を考えると、河川管理者の整備のみでは、すぐに安全・安心を確保することは難しく、そして、限界があると感じています。

そのため、水災害から命を守り、被害を最小化するためには、防災やまちづくり、福祉などあらゆる関係者の方々との更なる連携が必要と考えています。

なつて進めていきたいと思っています。

ワンチーム！

私は、九州地整河川部のキャッチコピーとして「ワンチームで、前向きに！」を掲げています。

河川で様々な活動をされている方々をはじめ、沿川自治体、企業などあらゆる関係者、そして「かわとも」読者の皆さんと「ワンチーム」で、沿川の安全・安心の確保、魅力向上、そして地域の活性化に向け、「前向きに」取り組んでまいります。

今後ともよろしく願い致します！



熊本市の市街地を流れる白川の「緑の区間」(写真右手)

近くの河川への関心から

加えて、沿川にお住まいの方々、河川で様々な活動をされている方々などに、その地域の水災害のリスクを知っていただき、水災害を自分事として捉えていただき、そして実際の行動に移していただく環境づくりを、「一緒になって進めていくことが大切と考えています。」

そのためには、まずは、より多くの方々に、身近なところにある河川に興味を持っていただきたいと考えています。それは、防災・減災の面からでも、河川環境や利活用の面からでも良いと思います。

河川は、時には災害をもたらしますが、多くの生物が息・生育・繁殖する場であるとともに、地域に自然の恵みや潤いをもたらし、人々の暮らしを支え、そして沿川の地域の歴史、文化等が育まれてきました。

私も着任以来、改めて九州各地の河川を見て回っていますが、それぞれの河川にそれぞれ多種・多様な魅力がたくさんあり、新たな魅力に出会うたびに胸が高鳴っています。その魅力は、各地域の様々な活動を通じて、維持・向上されているものと考えています。

現在、私たちも河川管理をしつかりと行うとともに、沿川自治体や各地域の方々と連携して、自然再生やかまちづくりなどの取り組みを進めています。

そういった取り組みとともに、沿川での様々な活動との連携により、河川がいろいろな方々が集う場となり、地域の夢やみらいを語り合える場になれば、と考えています。



宮崎市を流れる大淀川に整備された「橘公園」

笑顔の繋がる川へ

今後、より多くの方々に河川に少しでも興味を持っていただき、足を運んでいただき、河川を知ったり感じていただき、そして河川で楽しみながら、ともに活動していただけるような取り組みを進めていきたいと思っています。

冒頭でも触れましたが、かわとも「流域じまん」は読んでいてワクワクします。沿川の地域の良いところ、誇りに思えるところを、「かわとも」読者や他の地域の方々に知っていただき、そして自慢し合い、魅力を高め合い、そういった活動を楽しく行っていく中で、どんどん仲間が増えていくと思

います。



水辺のオタク！？ 教えて！ かめい先生！



☆現在の最推し生物☆
大きさ
約1mm
カハタレカワザンショウ



前 やながわ有明海水族館 館長
亀井 裕介さん

Q 幼少期や「やながわ有明海水族館」の館長をされるまでの経緯を教えてください。

私は福岡市の市内とはいえ自然豊かな地域で育ち、幼少期は山や川で遊ぶ「川ガキ」でした。川の自然環境、川の魚たちは遊び相手の一つとしてしか見ておらず、当時は、生き物より日本史に夢中でした。

転機は二つあり、まず沖縄美ら海水族館を訪れた際、ジンベエザメの大きさに圧倒され、水族館という幻想的な世界に感動したことです。魚ではなく水

ちなみに、日本でスズキは3種類いて、普通のスズキと沖合の方にいるヒラスズキ、外来種で瀬戸内海や和歌山にいるタイリクスズキです。有明海のスズキは、昔、中国からタイリクスズキがやってきて、海面が上昇して、スズキとタイリクスズキが交雑した個体群、第4のスズキで「アリアケスズキ」といわれています。

Q やながわ有明海水族館には、どんな生き物が展示されていますか？

有明海ならではの汽水域の生き物たち巻貝なども含めて80種類ほど。有明海特産種も多く展示していますが、一番力を入れたのは淡水魚です。柳川お堀の淡水魚、タナゴの仲間などを綺麗に見せることが、一番魅力的かなと思っています。淡水魚は、海水魚や熱帯魚に比べたら地味ではありますが、柳川の掘割などの文化に根付いた魚たちの個性を引き出すような展示を行っています。

ニッポンバラタナゴ、学名が *Rhodeus ocellatus kurumeus* といって、久留米という名前がつくような生き物も展示しています。久留米で見つかった、それがもとで新種として発表された結果です。筑後川防災施設「くるめウス」の謂われもこの魚ですね。

水族館そのものに魅了され、施設の構造や照明などの工夫に注目しながら観察するようになりました。

次の転機は、やながわ有明海水族館で、自分が思う「水族館」とは違う、市販の水槽での展示でした。しかも、そこに展示されていたのは、私が幼少期から親しんできた川の生き物たちでした。その瞬間、身近な川にも水族館の世界が広がっていることに気づき、深い感動を覚えました。小さな淡水魚の水族館ならではの気づきだったと思います。そこから魚採集に没頭し、やがて昆虫や水草、巻貝など多様な生物への興味が広がりました。

やながわ有明海水族館に頻繁に通ううちにスタッフと親しくなり、次第に手伝いをするようになり、前館長の退任を機に、副館長を経て館長となったという感じです。



Q 今、一番魅力を感じる、推しの生き物はなんですか？

今、夢中になっているのは微小巻貝、3ミリ以下の巻貝です。調査する人が少ない分野なので、新しい発見が次々と出てくるのが魅力です。現在、7本ほどの論文を書いていて、例えば、「ヒメヒラマキミズマイマイ」という巻貝は、九州本土では見つかっていませんでしたが、福岡市の私の地元で九州初発見という記録を残すことができました。熊本や宮崎にもいたという話もありますので、九州全域に生息していると思います。このような新しい発見に関わるのが、大きな喜びです。

特に最近ハマっているのは、「カハタレカワザンショウ」。この種は、昨年に新種として発表され、九州では10カ所しか確認されていませんでしたが、九州各地、40市町村46カ所からこの貝を見つけたことができました。

この貝は、干潟の中潮帯に生息していて、砂泥の中に深く埋まった石の下でのみ見つかります。生息環境が限られていて、発見の過程は非常に大変で、九州一周しながら、干潟で石をひっくり返し、30分かけて1ミリほどの巻貝を探すという地道な作業を続けています。

Q 有明海には、特産種が多く生息していますが、なぜですか？

日本で有明海でのみ生息するエッ、フラスボ、ムツゴロウなどの生物は、柳川などの地元では当たり前の存在ですが、全て日本では有明海でしかとれない生き物なので、同じ福岡県でも福岡市や佐賀県唐津市の人々には馴染みが薄いものです。そういった、一つの海からというか、生き物の違いから発展した文化が面白いと思います。

フラスボやムツゴロウが有明海に生息する理由の一つは、干潟の存在ですが、それ以上に歴史的背景が大きく関係しています。縄文時代以前、海面は現在より100メートル以上低く、日本と中国大陸が繋がっていました。

特に長江の河口と有明海は地形的に隣接しており、中国の魚が有明海に渡ってきました。その後、海面の上昇により、それらの魚が有明海に閉じ込められ、現在の独特な生態系が形成されました。エッも同じく、中国由来の魚です。

また、有明海の生物の中には、例えばアゲマキやハイガイなど、北部九州や瀬戸内海にも進出したものの数が少ない「準特産種」と呼ばれる生物も存在します。

Q 大学3年生とのことですが、将来はどんなことをしたいと考えていますか？

私は、啓発に力を入れていきたいと考えています。子どもたちの自然離れが進む中、川を身近に感じることで生き物の世界に興味を持つ人が増えるような活動をしたいです。尊敬する榎太一さんが「科学の魅力を伝えることができるからアナウンサーになった」とおっしゃっていたのを聞き、生き物に関しても生き物そのものに携わる仕事でなくともいいのかもしれないと考えているところです。

最近分野横断的な視点が重視されていて、ウナギの研究も生物学だけでなく法学や経済学、土木など多様な分野の専門家が協力しています。この考え方は流域にも応用でき、川を理解するには山や海も視野に入れる必要があります。歴史や文化なども含め、水系の枠にとらわれず広い視点を持って活動を行っていきたくと考えています。



佐賀新聞にて
「サガそう水辺の生き物」
連載中!

NPO法人 がんばりよるよ星野村



災害からの復興
星野川の自然と未来をつなぐ

がんばりよるよ星野村では、八女市星野村で子どもたちの環境学習を支援する活動を行っています。星野村の小学校では、川の授業が映像学習のみだったことから、「実際に地元の川に触れて学ぶ機会を増やしたい」との思いで取り組みを始めました。

筑後川河川事務所とも連携し、川の生き物や水質の調査を行うほか、バスで星野



インタビュー：山口さん



facebook



ふくおか やめ
福岡県八女市
/ 矢部川

雨後に地域の復旧・復興のために立ち上げ、棚田復旧活動にも力を入れてきました。復旧した棚田で、子どもたちに手植えから草取り、稲刈りまで二連の流れを学ぶ田植え体験も行いました。

また、環境事務所などと協力し、田んぼの生き物調査も実施。専門家を招いて、復旧後の田んぼに戻ってくる生き物を調査し、環境の変化について理解を深める機会を提供しています。

令和6年度星野小学校4年生の作品



日本一の高石積み棚田と NPO法人 蔵野の棚田を守るろう会

未来へ紡ぐ「蔵野の棚田」
地域の誇りを守る保存活動

唐津市相知町、松浦川の支川平山川沿いの集落にあり、八幡岳のすそ野に広がる「蔵野の棚田」は、江戸時代から続く貴重な文化遺産です。現在の棚田は、明治時代から昭和20年頃までに築かれたものが多く、自然石をそのまま積み上げた「野面積み」を基本とした構造です。その石垣は3m〜5mの高さがあり、中でも南川原の棚田の石垣は8.5m。その高さから「日本一の高石積み」といわれています。長い年月を経て育まれてきたこの美しい景観を未来へ残そうと、地元住民の方々が保存活動に力を注いでいます。また、棚田米の生産・販売に加え、棚田を生かしたイベントを開催しながら、地域の魅力を発信しています。

清流の育む棚田米

「蔵野の棚田米」は、棚田の保存活動とともに誕生しました。当初、町長の「この美しい棚田を生かし、地域活性化を図ろう」という声を受け、特別栽培米として

川、矢部川沿いを下って有明海まで移動しながら、歴史的土木遺構である「廻水路」や堰など川の構造を説明し、川の流れや水がどのように地域と関わっているのかを学んでいます。さらに、柳川では、有明海のNPOや地域の方々と協力し、子どもたちがどんこ舟に乗って掘割を巡る体験を行うなど、貴重な時間を提供しています。

棚田を通じて環境と防災を学ぶ

この団体は、平成24年7月九州北部豪

販売を開始。生活排水の影響を受けない清らかな水、昼夜の寒暖差が育む米は、その品質の高さから、全国から注文が入るほどの人気となっています。生産量は後継者不足の影響で減少傾向にあるものの、今年年間約17tの棚田米を販売しています。お米の販売促進もかねて、毎年地域を挙げてのイベントも開催。菜の花の咲く季節にはウォーキングイベントを企画し、地元産食材を使った手作り料理を提供するなど、参加者との交流を大切に行っています。

祖先の想いを未来へ

棚田の維持には多くの労力が必要ですが、石垣の管理や水路の整備、除草作業などは地元の人々の手作業に頼る部分が多く、後継者不足が深刻な課題となっています。棚田を次世代へと継承していくためには、地域の協力だけでなく、広く支援を募ることも求められています。地域の絆と努力によって守られてきた棚田。これからも、その美しい風景とともに、人々の想いを繋いでいきたい。そんな願いを胸に、保存活動は続いています。



さが からつ
佐賀県唐津市
/ 松浦川



インタビュー：百武さん



棚田交流広場からの眺め

蔵野の棚田
平成11年「日本の棚田百選」
平成14年「日本遊歩百選」
平成20年「重要文化景観」
令和2年「指定棚田地域」
令和4年「つなぐ棚田遺産
〜ふるさとの誇りを未来へ〜」
【棚田の見頃】
田植え時期 5月下旬
稲刈り時期 9月下旬
菜の花 3月下旬〜4月上旬
彼岸花 9月下旬



facebook

※野面積み
現地で採取される自然石を加工せずそのまま積み上げ石垣を作っていく工法。
形の違う不揃いの石を上手に積み重ねるので、頑丈で崩れにくく排水性も良いことから、棚田の石垣に多く用いられる。

玉名地域デザイン協議会



くもと たまな
熊本県玉名市
/ 菊池川

地域の魅力を再発見 『ノウレッジ』がつなぐ未来

熊本県玉名市の中心市街部を流れる菊池川には、水辺の美しさと緑があいまった河川敷「鶴の河原」が広がっています。地元の人々にとって、散歩や憩いの場として親しまれてきたこの公共空間。その魅力をさらに活かす新たな試みが始まっています。

令和5年11月、この河川敷を活用したマルシェイベントが開催されました。そのイベントの名は『ノウレッジ』。初めての開催にもかかわらず、来場者約2000名という多くの方で賑わいました。令和6年11月にも、第2回目を開催し、出店数も来場者も大幅に増え、地域の一大イベントとなりつつあります。

「Knowledge」(nougou) (農業) の nou+knowledge (知識) の know を組み合わせることで、地域の恵まれた資源や魅力を深く知る場としての願いが込められています。

このイベントを中心的に企画・運営されている玉名地域デザイン協議会の村田さんは、景観デザインの専門家としてこのプロジェクトに参画しています。

長崎県諫早市を流れる本明川の下流域に市民の憩いの場の創出などを目的として、桜づつみが整備されています。その堤防の河川敷は、除草が行き届き、常にきれいな状態が保たれています。これは、市内に拠点を置く企業、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリングの社員およびご家族の皆さまの手により保持されているものでした。

地域と環境への感謝を形に 〜本明川清掃活動の歩み〜

我々の生産活動に欠かせない工業用水は、多良山系を水源とする地下水に支えられています。その自然と地域の恩恵への感謝を目的に、2012年9月26日、国土交通省および諫早市と「ボランティア長崎in本明川」の覚書を締結しました。この日を境に、私たちは本明川の清掃美化活動を始めました。

また、私たちの活動は、川の清掃だけでなくとどまらず、会社周辺や海岸での清掃や、省エネへの取り組みを積極的に推進しています。地球温暖化や海洋プラスチックごみ問題などの現代の課題に対し、社員一人ひとりが向き合う機会を創出し、地球環境の保全に務めています。



美化活動を続ける上で、清掃活動をより多くの人が楽しく参加できるように、バーベキュー大会や子ども向けイベントを企画しています。社員のご家族も含め、さまざまな世代が気軽に足を運び、環境保全への関心を育むことができる場づくりに尽力しています。

本明川の魅力と未来への想い

本明川は、美しい自然に囲まれ、四季折々の風景が楽しめる素晴らしい場所です。流れる水の清らかさ、緑豊かな景観は、訪れる人々に安らぎを与えるかけがえのない存在です。

私たちの事業活動は、地球環境の健全であること、また、人々が安心して暮らせる社会を前提に成り立っています。引き続き、こうした取り組みを通じて、社員一人ひとりの意識を高めながら、本明川、ひいては地球環境の保全に努めていきたいと考えています。



イベントが生み出す 新たな交流の場

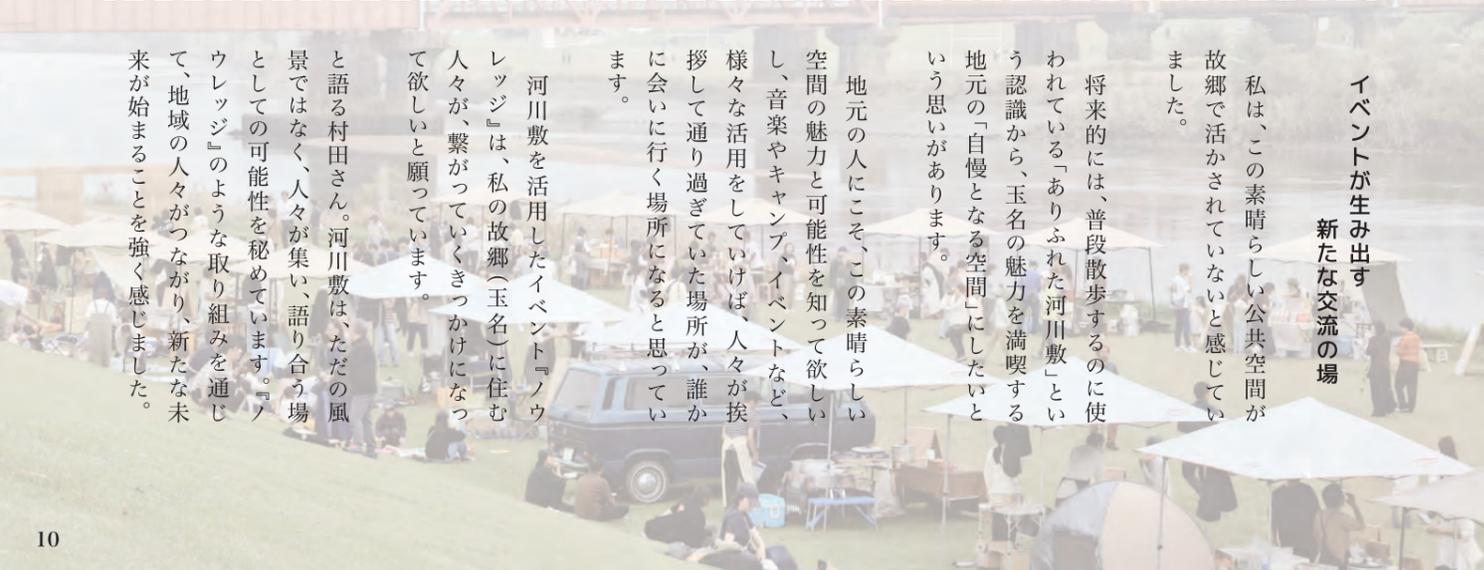
私は、この素晴らしい公共空間が故郷で活かされていないと感じていました。

将来的には、普段散歩するのに使われている「ありふれた河川敷」という認識から、玉名の魅力を満喫する地元の「自慢となる空間」にしたいという思いがあります。

地元の人にこそ、この素晴らしい空間の魅力と可能性を知って欲しいし、音楽やキャンプ、イベントなど、様々な活用をしていけば、人々が挨拶して通り過ぎていた場所が、誰かに会いに行く場所になると思っています。

河川敷を活用したイベント『ノウレッジ』は、私の故郷(玉名)に住む人々が、繋がっていくきっかけになって欲しいと思っています。

と語る村田さん。河川敷は、ただの風景ではなく、人々が集い、語り合う場としての可能性を秘めています。『ノウレッジ』のような取り組みを通じて、地域の人々がつながり、新たな未来が始まることを強く感じました。



ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング 株式会社 長崎テクノロジーセンター



ながさき いさはや
長崎県諫早市
/ 本明川



みやざきのべおか
宮崎県延岡市
／五ヶ瀬川



流域じまん
宮崎

NPO法人 ひむか感動体験ワールド

こがわ
ブルー



公式Webサイト

地域の特性を活かしたさまざまなアウトドア体験を提供されており、山では、延岡市の北西部に位置する山々の登山やトレッキング。海では、年間を通じて、シュノーケリングやダイビングの受け入れを行っています。

川では、カヌーやカヤックの体験が人気。透明度の高い北川の支川小川でのカヌー体験が多くの参加者を魅了しています。漁協さんとの兼ね合いもあり、小川での体験は8月末まで。9月以降は祝子川での体験を行うなど、地元との協力も大切に活動されています。

また、毎年、体験期間が終わると、利用した河川の清掃を行い、環境保全への取

アウトドア天国延岡

現在のNPO法人へと発展しました。現在、体験のガイドは約20名。ほとんどが40代以上のメンバーとなっています。

豊かな自然を活かす

宮崎県延岡市にて、山・川・海の市内にある地域資源を使用したアウトドア体験が行われている「ひむか感動体験ワールド」。活動のきっかけは、「地域の自然を活用して多くの人に楽しんでもらいたい」という思いから。17年程前に立ち上げた団体で5〜6年の試みを経て、新たな協議会を設立。観光業に力を入れたいという行政の支援もあり、軌道に乗り、現在のNPO法人へと発展しました。

途切れた文化を未来へ

体験活動は、一般の方のみならず、学校教育にも組み込まれています。市内の学校では、通常の授業の中でアウトドア体験を取り入れ、多彩な体験を通じて子どもたちが地域の自然と関わる機会を得ています。

近年は、大雨などで水位の変動が激しく、異常気象の影響への対応が必要となっています。特に川の活動での安全管理は、年度ごとに川の状況を確認し、催行水位を基準として決めるなど、慎重に対応されています。

目標は、自然体験を通じて「途切れた文化」の復活。かつては親から子など自然に受け継がれていた地域の川や山、海の知識。今の親世代は、その体験がほとんどないため、今の子どもたちに自然の中で体験を増やし、実際に川の流れや感覚を知り、安全意識を育む。また、川の変化や水の流れを理解することで、増える自然災害への対応力にもつながるのではないかと考えられています。

インタビュー：
事業部長 成崎 洋



おおいた おおいた
大分県大分市
／大分川

流域じまん
大分

大分川下流域 かわまちづくり検討委員会



公式Instagram



公式Webサイト



【おおいたかわまちリバーフェスタ 年間スケジュール予定】

▼年間を通じて、イベントを定期的で開催します。出店者募集やイベントの詳細は随時HP等でお知らせします。

令和7年												令和8年	
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
お花見マルシェ							大分川を遊びつくせ!			Campingマルシェ			

昨年10月水辺アクティビティイベント「大分川を遊びつくせ!」の様子



↑昨年11月キャンプイベント「Campingマルシェ」の様子

大分川の魅力を伝える

大分川下流域は大分市の中心部に流れ、豊後の国の政治・文化の拠点として栄えた歴史を持つ、地域にとってもかけがえない存在です。今ではカヌーの練習やウォーキング、サイクリングなど、市民の暮らしに寄り添う憩いの場として親しまれています。この美しい大分川の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。そんな想いから始まったのが「おおいたかわまちリバーフェスタ」です。

イベントの始まりは、カヌー体験やデイキャンプといった小さな取り組みでしたが、回を重ねるごとに地域の活動団体や飲食店、スポーツ用品店など、多くの仲間たちが想いに共感し、イベントに協力してもらえるようになりました。昨年は春のマルシェ、夏の水辺アクティビティ、秋のキャンプイベントと、多彩な催しを通じて約2,800名の方にご来場いただきました。今年も新たな仲間たちと共に、大分川の魅力を感じ、笑顔があふれる賑わいの場を創り出していきます。

日常的な水辺の憩いを創造

イベントの時だけでなく、日常的に人が集い、自然を感じられる水辺空間を目指しており、「大分川の歴史や自然を大切にしながら、都市の中で水と緑に親しめるまちづくり」を行政と連携して進めています。

舞鶴地区では、カヌーの乗り降りがしやすい親水護岸が整備され、強豪校である県立大分舞鶴高校カヌー部が日々練習に励む姿が見られるほか、夏の花火大会では、水面に映る幻想的な花火が人々の心を彩る特別な場所となっています。元町地区では芝生広場が整備され、未来のアウトドア・スポーツエリアとして期待が高まっています。

大分川の歴史、四季折々の自然、そして市街地からのアクセスの良さ。この恵まれた資源を活かしながら、人々が水辺に集い、心地よく過ごせる空間づくりをこれからも続けていきます。



↑今年3月「お花見マルシェ」の様子

り組みを続けていきます。



かごしま
鹿児島県鹿屋市
／肝属川



〈前列右から2番目より〉
前大隅河川国道事務所長 安藤氏
FMかのや 岩根氏(インタビュイー)
鹿屋市長 中西氏

国・市担当課の皆さんと協力して情報発信!

令和7年3月14日に、鹿屋市役所で「令和6年度 水防功労者 九州地方整備局長表彰」の伝達式が行われました。
令和6年8月の台風第10号による出水時には、臨時放送で安全確保を呼びか

けるなど水防災に貢献しており、平時から洪水時の情報収集手段の案内や備えに関する注意喚起などを通じて、地域の水防思想の普及にも長年取り組んでこられました。

防災情報の発信は、
コミュニティ放送の使命

今回の受賞をスタッフ一同とても喜んでいました。また、今後の励みにもなりました。

かのやコミュニティ放送は平成17年に設立され、「FMかのや」の愛称で鹿屋市内外の多くの人に親しまれているラジオ局です。

私たちは日頃から各関係機関と連携し、命を守るための情報を発信しています。

放送を通じて地域住民の水防意識の啓発にも取り組んでいて、豪雨や台風の際には臨時放送で防災情報の周知を行っています。

災害が予想される際には、鹿屋市安全安心課と連携して、明るい時間帯に避難所開設のお知らせを行い、停電時にもラジオを通じて情報提供と安全確保の呼びかけを行っています。また、大隅河川国道事務所および各関係機関の協力、防災情報の提供を得て、住民の安全を守る迅速な放送を行うことができます。

台風時には、スタッフも夜まで詰めて

放送を行っており、先輩方が築いてきた意識が今も脈々と受け継がれていると感じています。
防災放送はコミュニティ放送の「使命」だと考えており、今後も一丸となって取り組んでいきます。

声でつながる防災力
FMかのやが築く信頼の輪

もしもの時には、きめ細かい防災情報が必要となりますが、日頃のリスナーさんとのつながりは災害時にも活かされ、危険に気づいたらリアルタイムで地域の危険箇所等の情報が寄せられます。ありがたいことに、今では迅速に情報の共有が行われる環境が整ってきました。

平常時の鹿児島弁を交えた番組では、鹿屋市だけでなく、鹿児島にゆかりのある県外・海外のリスナーとも笑いや思いを共有しています。

私たちの合言葉は、「聞けば友達、語れば親友」です。これからもラジオを通して信頼関係を築きながら地域に根差した放送を続けていきたいと思えます。是非、皆さまも一度聞いてみてください。



「エフエムアラプラ」
アプリダウンロード(無料)
が必要です



～編集員が見つけた川の風景～

昨年の端午の節句、佐波川（山口県防府市）で、
鯉のぼりが泳ぐ川に出会いました♪

佐波川こいながし（小野水辺の楽校付近）九州では、杖立温泉（杖立川）や川上峡（嘉瀬川）、薩摩川内市（川内川）の天空を泳ぐ鯉のぼりが有名ですが、ここでは、水中を優雅に泳いでいました。また、高水敷では、家族連れの皆さんが鯉のぼりを走って泳がせるコーナーを楽しまれています。

編集員/鶴木



川辺の風景マニアッククイズ!

川の景色はみんなの原風景。ですが、その一つ一つは似ているようで、一つとして同じ風景では有りません。写真の風景は、どこの川の風景でしょう?難しい時はヒントを御覧ください。

【ヒント】

- ①毎年、端午の節句の前に鯉のぼりが泳ぎます。
- ②端午の節句「こどもの日」の前に、季節の風物詩として楽しまれています。
- ③奥の橋には、果物の名前の鉄道が走っています。



正解はP21へ

流域治水について

— 自分事化の取り組み —



流域治水推進室

(題字：流域治水推進室 原田 佳奈 書)

1. 流域治水とは

『流域治水』という言葉
葉を聞いたことはありませんか？

まず「流域」とは、大地に降った雨が地表を流れたり地中に染みこみながら川に流れ込む範囲のことを言います。皆さまの住む家もどこかの流域にあります。

そして「治水」とは、大雨時に河川の水位を下げ、河川の水を安全に流すことを言います。私たち河川管理者は、引堤(川幅を広げる)や河道掘削(川底を掘り下げる)で河川の器を大きくしたり、ダムや遊水地で洪水を貯めて河川の水位を下げる等の対策を中心に行ってきた。しかし、近年は気候変動の影響により雨の降り方が激甚化しており、全国各地で毎年のように自然災害が発生しています。そして今後も、気候変動の影響により水災害は更に頻発化・激甚化すると予測されています。

そこで、この気候変動への対応として、これまで行ってきた治水対策の加速化に加え気候変動を考慮した河川整備の計画を見直すとともに、河川の対策だけでなく、皆さまが生活する土地での雨水貯留、浸水リスクの高い地域での浸水対策



この線の内は全て流域

や住まい方の工夫、水災害リスク情報の充実や避難体制の強化など流域単位で一体的に進めていくことが重要です。

そのため、流域のあらゆる関係者(地域住民、企業、行政など)が協働して行う治水対策「流域治水」を推進しています。



↑流域治水の具体例

2. 九州における流域治水の取り組み

～ 山国川特集 ～

九州では、各地でさまざまな流域治水の取り組みが進められていますが、今回は、山国川で実践されている、流域治水をもっと身近に感じてもらう「流域治水の自分事化」に焦点をあてて、取り組みの一部をご紹介します！

今回紹介する山国川は、豊かな自然環境と美しい景観がみられ、国指定の名勝耶馬溪や日本遺産にも認定された青の洞門・競秀峰・羅漢寺・石橋群・中津城などの文化・歴史的な地域資源に恵まれています。

一方で山国川は、九州屈指の急勾配な

地形であることから

豪雨時には川の水位が急激に上昇する特性があり、流域面積の約9割を山地が占めていることから、豪雨時に山からの流木や土砂が川に流れ込むと洪水被害が大きくなるリスクがあります。

このことから山国川では、従来の河川での対策はもろろんこと、山国川圏域全体で、「流域治水」に取り組んでいます。



↑山国川流域の概要

流域一体となつて取り組む流域治水

近年の豪雨では、山地から流木や土砂が一気に河川に流れ込むことで、橋や護岸の破損、急激な水位上昇等の原因になっています。したがって、山地(森林)に雨水を貯めて(しみこませて)川への流出を穏やかにし、流木や土砂が流れ出にくくする対策が必要です。

山地の多い山国川では、河川沿いや急傾斜地等における流木発生危険性が高いスギ・ヒノキの人工林を対象に、これ

ぜひ水害リスクを「自分事化」して流域治水に取り組んでみましょう！

山国川では、このような対策の効果を「体感！流域治水ハウス」と題したわかりやすい動画を制作し、山国川河川事務所HPにて公開していますので、ぜひご覧ください。



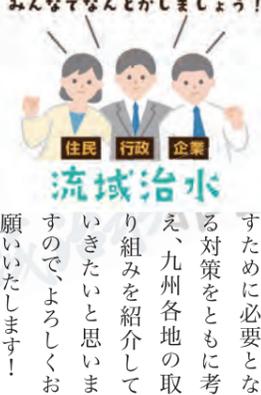
↑「体感！流域治水ハウス」動画はこちら

3. 最後に

今回、流域治水の取り組みを紹介するにあたり、資料提供にご協力いただいた方々へ心より御礼申し上げます。

読者の皆さまに少しでも「流域治水」を身近に感じていただき、「自分事化」して、「自分の流域での取組を知りたいな」「やってみよう」と思っていたら幸いです。

今後、流域の皆さまが安心して暮らすために必要となる対策をともに考え、九州各地の取組を紹介していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします！



(流域治水推進室 津野 智彬)

町職員による水路ゲートの操作状況



流域治水を知るきっかけづくり

山国川では、流域治水を知ってもらうきっかけづくりとして、山国川圏域オリジナルの流域治水ロゴマークを作成しています。このロゴマークは一般公募により寄せられた13作品の中から、山国川圏域流域治水協議会の委員により厳正な審査・選考が行われ、決定しました。ロゴマークを一般公募することで、応募者それぞれが山国川と流域治水について考えるきっかけになるとともに、このマークを広く活用することでマークに興味を持った方が流域治水を知るという好循環が生まれています。



地域で取り組む流域治水

↓流木による耶馬溪橋の被害(R5.7.10洪水)



↑災害に強い森林づくりの現地視察の様子

山国川流域の福岡県吉富町での取り組みについてご紹介します。吉富町では、大雨が予報された際に、町内に50カ所ある水路のゲートを事前に操作して、水路の水位を下げることで、水路に雨水を貯留する量を増や

らを伐採し自然植生の回復等により広葉樹へ転換する「災害に強い森林づくり」に取り組んでいます。地元の森林組合では実施場所の選定や森林所有者との調整、現地での施業などに協力しています。

『第23回九州「川」のワークショップ in 長崎』

九州「川」のワークショップは2001年にスタートしました。

2024年は、11月30日(土)～12月1日(日)の二日間に亘り、長崎大学(文芸キャンパス)・中部(なかべ)講堂を会場に開催されました。

オープニングを盛り上げたのは、長崎大学の龍踊部による龍踊(じゃおどり)で、九州各県から集まった川好き41団体(子どもの部3、大人の部38)は、活動内容など工夫を凝らした3分間の舞台発表を披露したあと夜の交流会で親睦を深めました。

また、アビタイムでは、川自慢や活動について積極的に質問や意見交換を行っていました。今大会の参加人数は2日間で延べ618名と大盛況のうちに終了、大会のフラッグは、2025年の開催地となる遠賀川流域に引き継がれました。

子どもたちと、大人の部の選考投票によるグランプリ、および準グランプリには、長崎ハタが渡されました。

今回、グランプリと準グランプリを獲得された2団体に受賞コメントをいただきました。

【グランプリ】

「ごかせ川 流域治水×ミニ水族館」プロジェクト
プロジェクト
プログラム 川邊晴香さん

自分ひとりではできなかったのと、とても感謝しています。それと同時に若い人のパワーとか勢いというのがすごく必要とされているなど感じたので、これからも精力的に頑張っていきたいなと思います。ありがとうございます。

【準グランプリ】

「涙は、明日へとつながる輪」

シロウオさがし in 浦上川

川に学ぼうかい in 浦上川(大橋地区) 学生メンバー(ながさき海援隊エコマジック) 想像以上に九州には川に関する多数の団体があり、課題や将来の展望について多くのことを学びました。3分間の発表を通じて、各団体の活動や実績を知り、当たり前ではあるのですが、どの地域でも私たちと同じような活動をされている団体を知り、一緒に活動しているような気持ちになりました。準備段階から楽しいミーティングを重ね、当日はさまざまな団体と関わり新しい活動にも取り組むことができ、非常に充実した2日間でした。交流会も楽しかったです。

歴史や自然を感じながらジャンボいなりを食べませんか？



ジャンボいなり

初めて若妻の店を訪れたのは、四半世紀前だと思います。

その時のジャンボいなりやうどんの味の感動は今も変わらず、その他にだご汁やまんじゅう、おはぎなどもあり、全てが懐かしい味です。また、地域の野菜や乾物なども販売しています。

店は、大分の県道412号沿いの今市にあり、四季折々の自然が迎えてくれます。

県道412号は、加藤清正が本格的に整備した豊後街道のルートであり、古くは参勤交代でも使われ、また、江戸末期には勝海舟や坂本龍馬が歩いた記録が残っています。お店から数分のところには、江戸時代の休憩所として今市宿があり、街並みや石畳、お寺などが残っています。歴史を感じながらの食事は貴重な経験となります。



↑今市の石畳

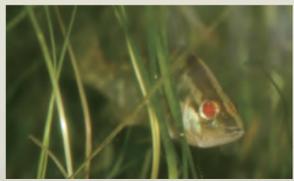
(編集員 宮成)

近くには、「ななせダム」(大分川ダム)や道の駅「のつはる」、ダム関連の施設である天空広場では子どもたちがサッカーをする歓声も聞こえます。

ドライブがたげぜひ来ませんか？

宮崎県の希少種「アカメ」

君の瞳に恋してる☆



↑コアマモ内に生息するアカメの稚魚



↑幼魚



↑成魚



アカメは日本固有種で、光を当てると目が赤く光ることが大きな特徴で、名前の由来とされています。主に宮崎県、高知県の沿岸に分布し、日本でも限られた地域にしか生息していません。環境省のレッドリストでは、将来的な絶滅が危惧される絶滅危惧IB類にランクされています。

アカメは海域で繁殖し、ふ化した稚魚が河口部に遡上します。幼魚は河川下流域のコアマモ等が繁茂するアマモ場に生息し、小魚やエビ等を捕食しながら成長します。

幼魚の体色は暗褐色で、不規則な黄色の斑紋と横縞があります。この模様は生息場のアマモ場に適応したものと考えられ、頭を下にして静止し、コアマモに擬態する習性があります。アカメの保全には、幼魚の成育場である河口部のアマモ場の存在が非常に重要です。

大型肉食魚で釣りの対象としても人気がありますが、宮崎県では指定希少野生動植物に条例指定されているため、採捕等は禁止となっています。

五ヶ瀬川水系友内川(宮崎県延岡市)では、過去に自然再生事業としてアカメ(*「マルカ」)、コアマモの保全を目的に水質浄化、河畔林の保全、再生等を地域住民、NPO、関係行政機関が中心となって実施しており、現在でも、アカメの幼魚の成育場であるアマモ場等、豊かな自然が保全されています。

*「マルカ」とは、アカメの宮崎県での呼び名です。



グランプリ 実行委員長 川邊 晴香さん
準グランプリ 川に学ぼうかい in 浦上川(大橋地区) 学生メンバー4名と稗園さん

開催にあたり尽力されました
実行委員長(故人)兵働馨様に
感謝の意を表するとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。



第23回九州「川」のワークショップ in 長崎
～ シーボルトから学ぼう! 川の歴史と水辺空間 ～

- 活 動 団 体 紹 介 -

1



宮崎県延岡市
五ヶ瀬川

NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク



↑理事長 山田さん



↑水質・水生生物調査



↑水辺の宝石 川のいきもの展

発足のきっかけは、前理事長が流域の調査をした際、川の変化より、山の変容と中山間地の衰退に心を痛めたことで、2002年に調査を共にした仲間と流域の再生を考える「NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク」を設立。同時に開館した資料館「リバーパル五ヶ瀬川」の管理、運営を受託しています。

五ヶ瀬川流域圏における地域連携を深めるための情報発信と人的交流を促進し、流域圏の環境の向上、文化の発展、産業の振興に寄与する事を目的としています。また、管理運営する「リバーパル五ヶ瀬川」においては、流域の任意団体、企業、個人等の会員と教育関係や行政機関とも連携を取りながら、カヌースクールや干潟の生き物の観察などの子どもや親子を対象とした水に親しむ活動、今後の河川整備についてのレクチャーや防災意識の啓発、自然環境理解活動などを展開し、川や水に知識を持った人材の育成に力を入れています。

清流五ヶ瀬川を次代へ

活動団体の高齢化によりこれからの

川の守り手不足が喫緊の課題であり、「清流五ヶ瀬川を次代へつなぐ」ために流域連携活動を推進しており、若い人材の掘り起こしや情報共有の場を設けることで、清流五ヶ瀬川を次代へつなぐたいと考えています。

また、保育園や住民団体などの研修会等で活動を紹介しており、今後も、より多くの方に川での学びの価値を伝え、水辺での活動の機会を増やしていきたいと考えています。子ども達が生き物に触れ、自然豊かで生物多様性に富んだ河川環境を知ること、ふるさとへの川への愛着の心を育み、未来の人材育成につながるものと考えています。

新たな水辺の楽しさや地域資源を掘り起こし、水辺の賑わいを創出するため、水辺のサイクリング、川にまつわる史跡へのパネル掲示など新たな取り組みも始め、日常的な水辺利用を促進していきます。

水辺が賑わい、川への関心が高まることで、良好な河川環境が保たれるとともに、魅力的な川づくりが推進されることを期待しています。



↑友内川カヌー体験



↑干潟の生き物観察・ライフジャケット着用体験



Webサイト

2



大分県佐伯市
番匠川

番匠川流域ネットワーク

番匠川流域ネットワークは、地域の子ども達などの川や周辺の自然の利用を促進するために構成団体の得意分野を持ち寄り、構成団体およびその他の団体やこの地域で活動しようとする個人、団体の活動を支援することを目的として設立されました。現在、41団体が所属し、さらに多くの関連団体と緩やかな連携を保ちながら活動を展開しています。ネットワークの役割は、地域の様々な団体をつなぎ、それぞれの専門性を活かしながら協力関係を築くことにあります。

このネットワークは、地域の活性化や子ども達の野外活動の支援をお願いする。例えば、児童クラブや学校が生物観察や水辺の活動を希望した際に、適切な団体を紹介し、指導者を手配することで支援しています。メンバーには、林業関係者や森林組合、漁協、野鳥の会、セーリングクラブ、カヌー協会など、多岐にわたる団体が含まれています。これにより、川の環境を守りつつ、地域の自然と触れ合う機会を提供しています。

緩やかな連携

番匠川流域ネットワークは、単なるネットワークで、その主役はそれぞれの団体であり、それぞれの団体が得意としている活動内容です。事務局は、団体の要望を繋ぎ、より活動が円滑に推進できるように調整を行っています。

近年では、カヌー体験やボウリング活動なども実施され、廃校になった体育館を活用してボウリングボードを設置するなど、新しい活動の場を提供しています。また、指導者の育成活動や、障がいを持った子ども達の支援なども行っているよう準備を進めているところです。

番匠川流域ネットワークの最大の特徴は、緩やかな連携というスタイルです。強制的な活動ではなく、それぞれの団体が自主的に関わり合い、必要な時に必要な支援を行うことで、長期的に持続可能な関係を築いています。今後も、周囲の変わりゆく状況の変化にどう対応するか、この緩やかな関係をもつてサポートし、継続していきたいと考えています。



facebook



↑小学5年生 活動の最後にみんなで川へ大ジャンプ



↑児童クラブの川体験・川遊び



↑水辺の楽校



↑サイキッズスポーツ体験教室



↑会長 武石さん、平野さん、柴田さん

九州各地で「川と街をつなげる」↑「川と人をつなげる」取り組みが始まっています！

(株)新井組 九州支店

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号

応用地質(株)九州事務所

〒812-0018
福岡市博多区住吉3丁目1番80号

(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-8

(株)九州開発エンジニアリング

〒862-0912
熊本市東区錦ヶ丘33番17号

(株)九州建設マネジメントセンター

〒812-0013
福岡市博多区博多駅前2-10-35

共和コンクリート工業(株)九州営業部

〒812-0025
福岡市博多区店屋町8-24

(株)建設技術コンサルタンツ

〒890-0007
鹿児島市伊敷台一丁目22番1号

砂防エンジニアリング(株)

〒350-0033
埼玉県川越市富士見町31-9

清水建設(株)九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通3丁目6番11号

(株)高崎総合コンサルタント

〒839-0809
久留米市東合川3丁目7番5号

飛鳥建設(株)九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通5丁目14番12号

西日本技術開発(株)

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1丁目1番1号

日本工営(株)福岡支店

〒812-0007
福岡市博多区東比恵1-2-12

パシフィックコンサルタンツ(株)九州支社

〒812-0012
福岡市博多区博多駅前中央街7番21号

松本技術コンサルタント(株)

〒871-0161
中津市大字上池永1285-10

八千代エンジニアリング(株)九州支店

〒810-0073
福岡市中央区舞鶴3-9-39

(株)ARIAKE

〒860-4108
熊本市南区幸田2丁目7-1

(株)大本組 九州支店

〒810-0041
福岡市中央区大名2-2-7

(株)川原建設

〒871-0434
中津市耶馬溪町大字樋山路38

(株)九州建設計画エンジニアリング

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

九州電力(株)

〒810-8720
福岡市中央区渡辺通2丁目1-82

(株)建設環境研究所 九州支社

〒812-0023
福岡市博多区奈良屋町2番1号

国際航業(株)九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅前3丁目6番3号

三州技術コンサルタント(株)

〒890-0042
鹿児島市業師1丁目6番7号

第一復建(株)

〒812-0006
福岡市博多区上牟田1丁目17番9号

中央開発(株)九州支社

〒814-0103
福岡市城南区鳥飼6-3-27

(株)西技計測コンサルタント 九州営業所

〒826-0041
田川市弓削田見立3175

(株)日水コン 九州支所

〒812-0038
福岡市博多区祇園町7-20

日本振興(株)九州支店

〒812-0013
福岡市博多区博多駅前2-5-21

(株)不動テトラ 九州支店

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号

三井共同建設コンサルタント(株)九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅前2-14-1

いであ(株)九州支店

〒812-0055
福岡市東区東浜1-5-12

(株)奥村組 九州支店

〒805-8531
北九州市八幡東区山王2-19-1

技研興業(株)九州営業所

〒812-0007
福岡市博多区東比恵2丁目20-25

九州建設コンサルタント(株)

〒870-0946
大分市大字曲936番地1

(株)共同技術コンサルタント

〒880-0036
宮崎市花ヶ島大原2361-1

(株)建設技術研究所 九州支社

〒810-0041
福岡市中央区大名2-4-12

五洋建設(株)九州支店

〒812-8614
福岡市博多区博多駅前2丁目7-27

ジェイエイシーエンジニアリング(株)九州支店

〒812-0014
福岡市博多区比恵町1-1

(株)大進

〒890-0016
鹿児島市新照院町21番7号

(株)東京建設コンサルタント 九州支社

〒812-0016
福岡市博多区博多駅前2丁目12番3号

(株)西日本科学技術研究所

〒780-0812
高知市若松町9番30号

日鉄鉱コンサルタント(株)福岡支店

〒820-0053
飯塚市伊岐須1-356

(株)ニュージェック

〒531-0074
大阪市北区本庄東2丁目3番20号

松尾建設(株)

〒840-0842
佐賀市多布施1丁目4番27号

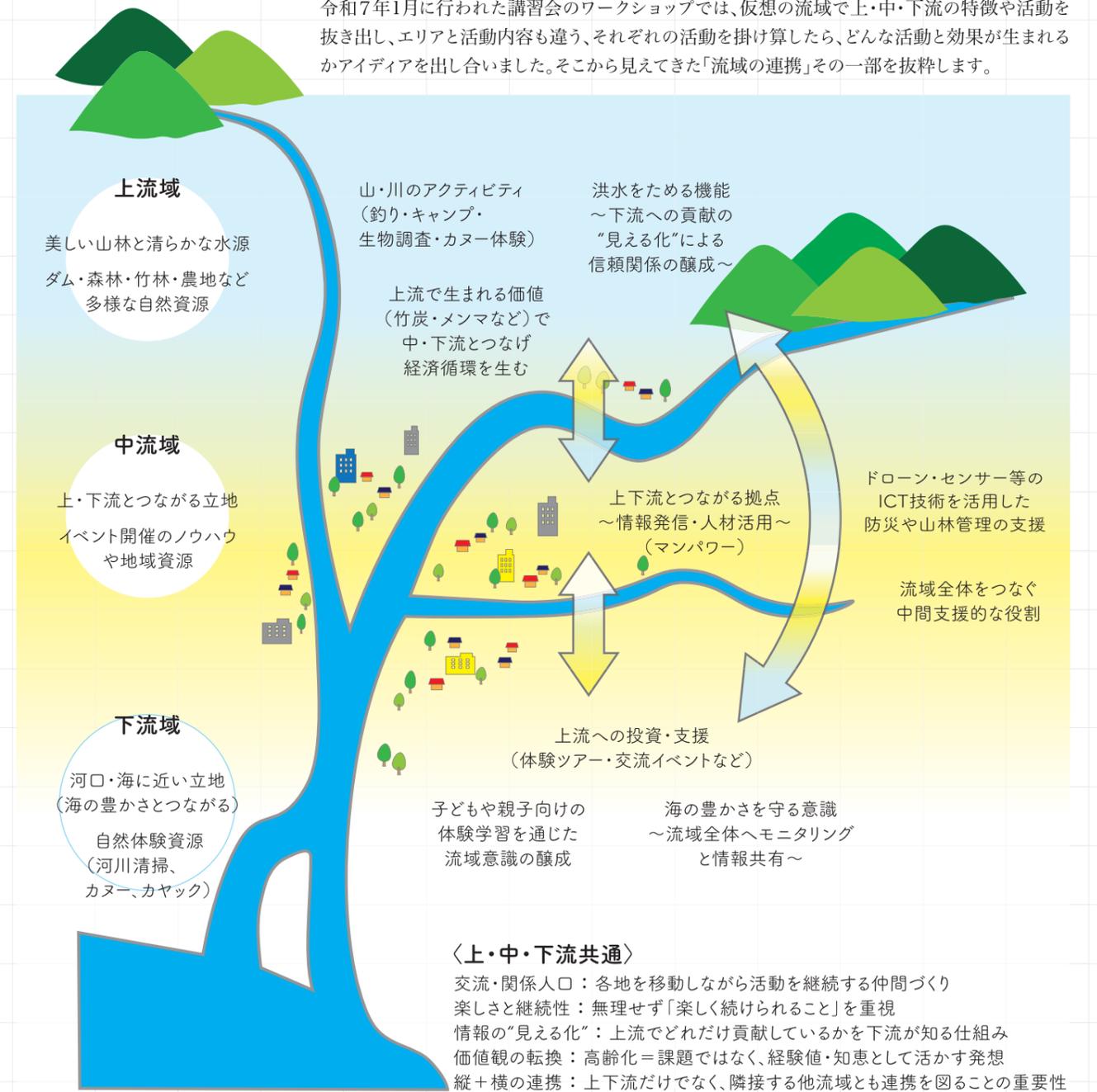
牟田建設(株)

〒842-0103
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲1756

流域地図を描こう! ~新たな流域まちづくりの創造~

「九州流域連携モデル」の紹介(河川協力団体講習会より)

令和7年1月に行われた講習会のワークショップでは、仮想の流域で上・中・下流の特徴や活動を抜き出し、エリアと活動内容も違う、それぞれの活動を掛け算したら、どんな活動と効果が生まれるかアイデアを出し合いました。そこから見えてきた「流域の連携」その一部を抜粋します。



編集
後記

「九州かわとも」第9号編集後記

今号の記事作成および取材に協力くださった皆さまには、心より感謝申し上げます。私たち編集チームにとって、「かわとも」の取材は新しい出会いの場です。それは私たちだけでなく、活動される皆さんも同じだと感じています。例えば、九州「川」のワークショップでは、夢を持つ若者が長く川の活動をしてきた方々と交流できますし、発表者のアピールタイムを通じて新たな出会いと発見があります。また、企業の活動などの取材では、地域の川と環境を愛して行う「活動」という名の学びや楽しみに触れる機会になります。皆さまの活動の紹介に加え「流域治水」の記事もご覧いただき、梅雨を前に、各家庭でできる「流域治水」の小さな取り組みの一助となれば幸いです。最後に、たくさんの物語がある九州の川、皆さまのお手元にお届けした川あそび情報誌「九州かわとも」が新しい出会いに繋がることを期待しています。 「九州かわとも」編集チーム一同